

【令和6年度の終了に寄せて】

竜田川沿いに、今年のサクラがようやく姿を見せ始めました。まだ満開とまでは至っていませんが、待ちに待った春の到来です。冬の厳しい寒さの中でも、新たな芽をはぐくませ、今か今かと蕾をパンパンに膨らませていく姿から、たとえ言葉に発しなくとも『生命の誕生』はとても神秘的で、強く、尊いものである」ことを、私たちにそっと教えてくれているのだと思います。



【今年のサクラ（奈良市内）】

【これまで「ありがとうございました」】

今月14日（金）が中学校の、そして19日（水）は3小学校の卒業式でした。

小学校の式当日の朝のことです。いつものように、役場近くの交差点で登校して来る子どもたちの見守り活動をしていました。すると、いつもの時間帯にいつものように、小走りに駆け込んできたグループの中の6年生児童が、毎朝この場所で見守り活動をしてくださっている学校ボランティアの方に向かって大きな声で「6年間ありがとうございました！」と、言葉を伝え、きちんとおじぎをし、駆け抜けていきました。この日はとても寒さが厳しくつらい朝でしたが、私たちの心に、とても暖かな炎を灯してくれました。

参列した平群南小学校の式では、卒業証書を手にした後、今日までの感謝の気持ちを、それぞれ伝えたい人（父や母、兄弟姉妹、友達やクラスの仲間、思い出等）に向けて、自らの言葉で伝えていきました。はっきりと心のこもった声に、会場中が感動の渦に巻き込まれました。



平群北小学校、平群小学校でも、そして平群中学校でも、一人ひとりが凛（りん）とした態度（落ち着きがあり、美しく輝く姿）で、式に臨み、それぞれの課程を修了し巣立っていきました。

平群町の子どもたちが、純真で清らかな姿と心が、しっかりとほぐくまれていることを、誰しもが感じ取れた瞬間（とき）でした。

【町内小中学校の体育館に空調設備を設置します】

昨今の地球規模の気象変動は極めて憂慮すべき事態にあります。昨年の夏の暑さは異常で、毎日のように「熱中症警戒アラートが発令され、小学生の水泳教室の中止や中学校の運動部活動における戸外での活動の中止等、子どもたちの教育活動に大きな支障をきたす事態となりました。

また、各学校の体育館は、万一大地震や大水害等の有事が発生した際に「避難所」として、

町民の皆様の命と安全を守る場としての役割があります。

ついては、令和7年度から、町内すべての小学校並びに中学校の体育館に、空調設備を設置する取組を、令和9年3月の整備完了を目指し開始いたします。

尚、令和7年度からは、平群中学校の長寿命化改修工事に取りかかる予定をしていましたが、空調設備（中学校や南小、北小では体育館の漏水対策や照明器具のLED化等の環境整備も同時に行う）工事の完了後に着工する予定をしております。

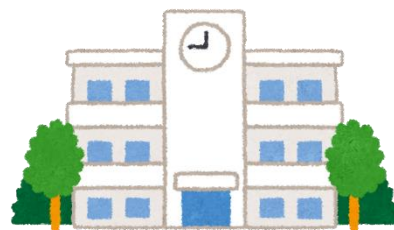
【中学校の部活動の地域移行化について】

令和8年度から、「教員による休日・祝日での学校部活動指導を廃止する」の奈良県教育委員会からの通知を受け、その準備等（令和5年度からの「平群町地域クラブ」の開設・実施等）を進めているところです。

令和7年度につきましては、これまで通り運動部7種目9部（卓球部及びバスケットボール部はそれぞれ男女に分かれるため9部となる）、文化部4部の合計11の部活動は、そのまま募集を行い、教員による部活動として実施いたします。

令和8年度以降につきましては、休日の指導の方法（指導者の確保及び指導者への謝金等の保護者負担等）について検討し、在籍する子どもたちの活動に支障をきたすことが無いように努めてまいります。

尚、当教育委員会HPに「中学校部活動の地域移行について」の説明用資料（パワーポイント）を4月中旬に掲載いたします。ご覧いただき、少しでも今後の流れ等についてご理解いただければ幸いです。



【子どもたちの活躍】

まずは、今月初めの8日（土）、第20回県市町村対抗こども駅伝大会が、橿原市運動公園を会場に開催された話題からです。

町内3小学校の5・6年生男女8名（4名ずつ）は、12月からチームを編成し、毎週水曜日の午後4時からの1時間、監督・コーチや関係スタッフの熱心な指導を受け、一生懸命練習に励んできました。特に、例年に比べてかなり厳しい寒さが続く中、回を重ねるごとに、選手同士の絆が深まり、とてもいいチームが出来上がりました。

本番当日（3/8：土曜日）は、春のような暖かな天候に恵まれました。出走前はどの子どもとても緊張した面持ちでしたが、第1区から最終6区まで一本のタスキを懸命に繋ぎ、全39市町村中の第19位と、大健闘の結果を打ち立て、見事「ステップアップ賞」を受賞してくれました。いや、結果以上に、一人ひとりの仲間が走ってくるたびに、大きな声で応援し、思わず一緒に走る姿など、心を一つにした取組の集大成が描かれていました。本当によくがんばりました。“あっぱれ！！”

そして、二つ目は、各小学校が今年度一年間で取り組んだ活動の中から、一部分ですが紹

介をします。文章だけではなく写真も掲載したいのですが、それぞれ掲載上の配慮が必要となるため、詳しくは町のホームページや各学校のホームページをご覧ください。

【平群小学校：6年生】

平群小学校6年生が「椿井城の未来変える課」と題して取り組んだ「総合的な学習の時間」について紹介します。

〈以下、「町公式HP」に掲載した紹介文より抜粋〉

子どもたちは一年間の学習を通して、

「椿井城のことを幅広くいろいろな人に知ってほしい」、

「椿井城に行くまでの登城道の利便性をよくしたい」、

「これからも大切に守り伝えたい」等

様々な視点から自分たちにできることは何かを考え、「遺構説明看板」や「登城道への階段設置」、「椿井城限定グッズの制作」など、椿井城を未来につなげるための「椿井城改良計画の企画書」を作成しました。

3月11日（火）、6年1組の代表の子どもたちが、ポスターやパンフレット等を持って町役場「観光産業課」を訪問し手渡してくれました。（町教育委員会手前廊下左右の壁面に掲示しています、ぜひご覧ください）、また、3月17日（月）6年2組の子どもたちが全員で役場を訪れ、募金活動で集まったお金を、椿井城の遺跡を守るために是非とも活用してもらいたいとの願いを託し、西脇町長に届けました。

西脇町長からは、感謝の言葉とともに「いただいた寄付金は、平群町の「ふるさと基金」にある椿井城の保存に関する様々な活動や取り組みのために、大切にに使わせていただきます。これからも、平群町のすばらしさや大切なものをより多くの人に知ってもらえるように、私たちとともに考えていきましょう。」とのメッセージを子どもたちに贈りました。

尚、この取組に関する記事が、3/22（土）の奈良新聞に掲載されました。

（町のHPでは、贈呈時の写真も含め掲載しています。是非ともご覧ください）

【平群北小学校：5年生】

平群北小学校5年生が「お店をつくろう」というテーマで以下に示す目的のもと取り組んだ内容を紹介します。

昨年5月に取り組んだ野外活動後、子どもたち一人ひとりに自らが秘める力や自分の特性に気づかせ引き出したい、お互いが協力しあうことの大切さをもっと高めたいと担任の先生方を中心に検討を重ねました。そして、考え付いたのが、この「お店をつくろう」という企画でした。「お金の価値」や、「世の中の仕組み」、「物が売れるためには何が必要なのか」など、子どもたちにそのわけや意味を自ら考えさせたり、接客する上でのマナーや必要となる力などについて問いかけたりと、様々な研修を重ね、子どもたちが店員として、お店を経営するこの取組が進められました。

「お店をつくろう」のねらいは、次の3つです。

① 物を大切にすることを養おう！

いろいろな物は、人の手と心によって作られている。この大切なことに気づせ、物を大切にすることを養う。

② お金の大切さを知ろう！

物を売る、物を買う、物をつくる、物を仕入れるなど、様々にかかわってくるのが「お金」。経済活動などの社会の仕組み、お金の価値や大切さについて学ぶ。

③ 自分にやれる役割を知り、担おう！

ひとりひとりが役割をもち、その責任を果たすために、自分の「強み」を知り、気づき、実践する力を養う。

〈当日までの取組〉

さて、お店経営に向けて自分が果たせることや役割として担えることを考えるために、子どもたちひとり一人に「プチ履歴書」を配り、自分はどのような人柄でそのような強みを持っているのか、得意なことが何であるのかを書き込み、自分をPRする学習に取り組みました。そして、お店における役割を自身で選択し、グルーピング、接客等のさらなる研修を重ね、いよいよ開店へと！

〈当日：令和7年2月7日（金）PM1：30～〉

遂にお店がオープン、その数なんと8店舗。実際に私も、その様子を拝見しました。保護者の方々がお客様として、たくさん来てくださっていました。そして、待ちに待った開店と同時に、アクセサリーやアロマ商品、装飾品やしおり等の小物等、どのお店も大変な賑わいでした。子ども店員が商品の説明やお金の受け渡し、最後は大声で「ありがとうございました」と、笑顔あふれる「北小バザール」でした。

〈成果〉

自分にはどのような特性があり、強みがあるのかに気づくことや何ができるのかを知ることは、とても大切に意味のあることです。人は皆、「無限の可能性」を秘めています。この取組を通して、子どもたち一人一人は、大きな自信を身につけてくれたこととを考えます。そして、「子どもたちが、この一年間でとても成長できたことの手ごたえを感じた。」と、先生方がとても嬉しそうにお話しをしてくださいました。

【平群南小学校：4年生・5年生合同の取組】

小学校の最後は、南小学校2学年合同で取り組んだ「みなみなタイム」からの紹介です。

南小は、全学年1学級という小規模校であることから、日常の固定化された子どもたち同士の関係を、異年齢の子どもたちと交わりコラボした学習に取り組むことで、これまで味わったことのない関係づくりや、人とうまく調和するために必要となる力を発揮すること、また年下の人との交流からは思いやりのある心の大切さを、また上級生と話したり一緒に活動したりする経験を経て憧れを抱くなど、それぞれの心をはぐくむ機会の学びに取り組んでいます。

さて、「みなみなタイム」というネーミングですが、南小学校の「みなみ」と、みんなで力を合わせての「みな」をかけ合わせてつくられた言葉で、何とその歴史は古く、20年近くも前に生まれ、以後脈々と今日まで受け継がれてきている学習プログラムの呼び名で、

「みなみなタイム」の他に、「みなみな体操」や「みなみな遊び」など、多くの「みなみな〇〇」があると聞きました。

今回は、4年生と5年生が一年間（6月半ばから11月半ばまでの5カ月間）で取り組んだ結果、子どもたちにどのような変化や成長が見られるようになったのかについてご紹介します。

まず、二つの学年で約40名あまりとなった子どもたちは、以下に示す8つのグループに分かれ、それぞれのテーマをもとに意見を交流しあいました。

〈グループごとのテーマ〉

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ア. 未来にできそうなもの（日用品） | イ. 世界の中の言語や国旗 |
| ウ. 現在や未来のいろいろな仕事 | エ. 国によって異なるめずらしい乗り物 |
| オ. いろいろな国での遊び | カ. 生き物の生態 |
| キ. オリンピックの競技 | ク. マンガの作り方 |

そして、迎えた6月の第一回目の話し合い、少し緊張気味だったようで、この時はあまり声が飛び交わず、かたい雰囲気で終わってしまいました。

そこで、それぞれの担任の先生方から、意見を交流しあう時は、良い意見を出さないといけないと考えるのではなく、自分の考えを正直に話すことや、人が話す時は耳を傾け、自分の考えと照らし合わせることを大切にするなど、いろいろなコツを教わり、学習していきました。

その後、合同での話し合いの回を重ねると、徐々に互いに打ち解け始め、さらにはグループの意見をメモにまとめる人や、いろいろな意見を積極的に出せる人など、グループ内での役割分担が自ずと進んでいきました。

このように、「みなみなタイム」の活動を通して、普段あまり知らなかった異学年の人の一面を知り、上級生への憧れをもったり、下級生への思いやりが芽ばえたりするようになっていきました。

そして、これまでの休み時間では、学年ごとに別々に遊んでいたのが、4・5年生と一緒にドッジボールを行ったり、ゲストティーチャーの授業を受けたりするなど、学年の枠を超えた関係づくりへと進んでいます。

子どもたちが持つ「しなやかな感性や感覚」には、目を見張るものがあります。

人と人との「ふれあい」を通してはぐくまれていく「力」は、今後歩いていく未来社会を生き抜いていく為に、欠くことの出来ない大切な力に他なりません。人それぞれに備わっている「無限の可能性」を引き出し、はぐくませる「学び」は、3つの小学校それぞれの方法こそ異なりますが、このように確かな手ごたえや成果を生み出すことに着実に繋がっています。

引き続き、お互いに切磋琢磨しながら、中学校で一つに融合し、さらなる飛躍を遂げる機会へとつながっていることを、次年度における「教育長だより：中学校の取組紹介」でご確認いただけること、ご期待ください。

次年度も、何卒よろしくお願いいたします。

